明治安田こころの健康財団

わかたけ通信 令和8年10月号



お子さんの発達を支援されているみなさまへ

災害による影響を受けられているみなさま、ならびに感染症による影響を受けられているみなさまには心よりお見舞い申しあげます。

８月は１０個の台風が発生し、９月は東京都心で毎日雨が降り観測史上最長記録を更新するなど、お子さん達も室内で過ごすことの多い日々だったことと思います。同じ時間でもレジャーや外出はあっという間に時間が過ぎる一方、室内で過ごしている時は時間を持て余すなど、雨の日は退屈を感じ時間がとても長く感じた方も多かったのではないでしょうか。秋分が過ぎ日の入りが早くなってきますと「秋の日はつるべ落とし」と言われるようにあっという間に日が暮れ、家路を急ぐ人の姿も増える季節を迎えました。冬至に向けてこれから昼の時間が短くなっていくため、室内で過ごす時間も増えることでしょう。

社会性やコミュニケーションの発達に支援を必要とするお子さん達は上手く時間を使えないことがあります。ルールやマナーを守りながら上手に室内で時間を過ごすことに困難さを示すことも少なくありません。時間を上手く使うためには「いつ、どのように、どれくらい」というその場の環境からの期待に応えることに加えて、室内で一定時間過ごすための活動のレパートリーが必要ですが、これは一朝一夕にはできません。秋の夜長に、将来に向けて新しい活動に少しずつ挑戦してみてはいかがでしょうか。

着実に、一つずつ…“急がば回れ”

社会性やコミュニケーションの発達に支援を必要とするお子さんは「家庭生活」「集団生活」「地域生活」において参加の機会や学ぶ機会を逃していることが少なくありません。また、周囲の人にとって困った行動は「問題行動」として「無くす」「減らす」対象となることがあります。

生活場面では他者との関係を好むことや帰属意識・仲間意識を前提に、「見様見真似」と「人の振り見て我が振り直せ」が求められるため、異なる学習スタイルを持つお子さん達は、そのような環境においては失敗経験が増えやすく、参加の機会や学ぶ機会が保障されにくくなります。特に、初めてのことや見通しがないことに不安を覚えやすいお子さん、失敗による不快感が強くきちんと正しくやりたいお子さんは、次第にその状況に対して消極的になり、うまくできなかった経験をした場所・活動・材料・人等に対して強い拒否を示すことがあります。 1

問題行動は「無くす」「減らす」対象として「早急に対処するもの」として捉えられやすいですが、その行動は「お子さんと環境との相互作用の結果」であることから、お子さんの認知特徴や行動特徴を捉える機会でもあります。

どのようなきっかけでその行動が生じ、お子さんはその行動によりどのような結果を得ているのか、そこからお子さんの学習スタイルが見えてくることも少なくありません。

そして、問題行動は支援者にとって「お子さんに期待する行動」を再確認する貴重な機会、そのような行動をお子さんが学習するために必要な環境を検討し整える機会でもあり、その際には「問題行動」を通して把握できたお子さんの特徴をその後の支援に活かしてしていくことが有効です。 2

社会性やコミュニケーションに支援を必要とするお子さんは、興味関心のあることにまっすぐ正直に行動する特徴があります。素早く結果に辿り着こうとするため、周囲から期待される行動を学ぶことを好まないように見えることがありますが、お子さんの学習スタイルに合うよう対応を工夫することにより、ポジティブなやりとりと前向きな行動が増え、そのような環境を用意し支援する人のことを好むようになっていきます。

お子さんの行動を捉えること、特徴を整理すること、支援方法を検討すること、そのお子さんに合う環境を整えるために色々準備すること等々、そのような支援は地道で時間も労力もかかります。期待する行動が定着するまで、一定の期間も必要です。 3

ポジティブなやりとりが生まれるような支援方法は簡単には見つからず、支援者にとっては試行錯誤の連続です。巷に広がる支援アイディアが有効でないことも少なくありません。それでも地道に取組み続け見つかった支援方法により、お子さん達にはいつしか周囲の人から賞賛される行動のレパートリーが増えていき、気付くと問題行動が減っています。期待する行動を具体的に目標として掲げること、そのような行動が生じるような支援方法を見付けること、その支援方法を使って具体的に日々実践すること、その積み重ねがお子さんの将来の可能性を広げていきます。これらは、幼児期から取組み続け、学齢期を経て青年・成人期を迎え、社会生活を送り始めたお子さん達から学んだこと・・・“急がば回れ”です。 4

子ども療育相談センター主催

自閉スペクトラム症のお子さんへの具体的な支援に役立つ講義＋ワークショップのご案内（無料）

自閉スペクトラム症のお子さんの将来の可能性を広げるためには、年齢相応・能力相応に期待される機会をできるだけ多く設けること、直接的に成功体験を積めるような環境を通して他者から学ぶ機会を設けることが必要です。自閉スペクトラム症の特徴から見様見真似することや他の人の経験を自分に置き換えることに難しさがあるため、お子さんの学習スタイルに合わせて教育・支援することが求められます。

問題行動の解消にとどまらず、一つひとつ地道に経験や練習を通して行動が変わる機会を設けることは時間や労力がかかりますが、成人期を迎え特長を発揮している方々の姿は「急がば回れ」を教えてくれています。しかしながら、社会性やコミュニケーションの発達に支援を必要とする自閉スペクトラム症のお子さん達の特異な能力は、家庭生活・地域生活・集団生活では「問題行動」として表現されることが多く、「特長」として発揮されにくい面があります。そのため、支援者の方々の思いがお子さんへ届きにくく、日々の取組みがなかなか良い結果に結びつかないことも少なくありません。

このワークショップでは、自閉スペクトラム症のお子さんの認知の特徴や行動特徴について、「経験や練習を通して行動が変化しているか」という視点で整理するとともに、将来の生活から今の目標を設定し、新しい行動を教えていくための手立てを具体的実践的に体験していただくことができます。

自閉スペクトラム症の特徴のある幼児期から学齢期のお子さんの支援で悩まれている方、お子さんへの支援方法について具体的・実践的に学んでみたい方々のご参加をお待ちしております。

【開催概要】

日　　時：2026年12月5日（土）13:00～16:00

費　　用：無　　料

会　　場：公益財団法人 明治安田こころの健康財団 講義室
〒171-0033 東京都豊島区高田3－19－10 ヒューリック高田馬場ビル8階
JR・東京メトロ東西線 高田馬場駅より徒歩7分 都電荒川線（東京さくらトラム）学習院下駅より徒歩8分
＊詳しくは財団ホームページをご参照ください（二次元コードからもご確認いただけます）

対 象 者：保育園の先生、幼稚園の先生、学校の先生など自閉スペクトラム症の特徴のあるお子さんの発達支援に日々携わっている方

定　　員：20名

プログラム：詳細はこちらのご案内をご参照ください

申込方法：kodomo@my-kokoro.jpまで以下の内容を送信してください
折り返し担当者よりメールにてご連絡いたします
【件名】ワークショップ申し込み
【本文】①氏名 ②所属名 ③担当しているクラスや年齢または学年

締　　切：11月28日（土） ＊定員に達した場合はホームページにてその旨お知らせいたします

お問い合わせは下記までご連絡ください

電話受付時間 火曜～土曜 9:00～16:00

子ども療育相談センター直通 03－3986－7060

～療育・相談のご案内～

- 説明をお聞きになりたい方は「説明会（無料）」にお申し込みください
- ご相談をご希望の方は「事前相談（無料）」にお申し込みください
- いずれもオンライン（zoom）にてご参加いただけます
- 当センターの方針や具体的な取組みについてお聞きいただけます

【発行元・連絡先】
公益財団法人 明治安田こころの健康財団　子ども療育相談センター
〒171-0033 東京都豊島区高田3-19-10

発行日 2026年10月15日

わかたけ通信はホームページにも掲載しています